

サマーセミナー-09

歯科医療改善めざし討論 協会方針示し、会員と意見交流

講演概要

協会が8月23日に開催したサマーセミナー09で、レセプトオンライン義務化撤回大阪訴訟の原告側弁護団長の河村武信氏が訴訟の意義について、大阪歯科理工士連絡会代表の石橋哲夫氏が海外技工の実態について、協会副理事長の小澤力氏が次期改定について講演した。概要を紹介する。

選挙後の国会に働きかけ強める

小澤 力・協会副理事長



小澤力副理事長が「2010年改定と今後の歯科医療」と題して、今回のサマーセミナーをうけての協会の活動方針について述べた。

2010年の改定にむけての課題として小澤氏は、

は、①窓口負担の引き下げ②混合診療(選定療養)を拡大せず、公的保険の範囲を拡大する③診療報酬の改善——の3点を指摘。厚労省と日歯が、2010年改定にむけて選定療養を活用することで一致していることについて、「保険給付の縮小を招き、国民の願いに逆行する。保険の給付範囲は拡大すべき」と強調した。

また今後の運動につ

義務化で医療崩壊現場の声を

河村 武信・協会顧問弁護士



レセプトオンライン義務化撤回大阪訴訟の河村弁護団長は、「選挙結果で政権交代したとしても、省令が撤回されることには直結しない」と前置きしたうえで、裁判争点について「答弁書によると国は、医師・歯科医師の医療行為を単なる営業活動といった利潤行為に限定し、矮小化している」と指摘。「医療行為は国民の医療、公衆衛生に寄与するという高い公共的価値がある。その行為がおよぼす影響については医師・歯科医師側、患者側の両面からとらえるべきであり、そのことを裁判で明らかにしていきたい」と強調した。

25日にむかえる第2回期日について、国から①代行請求などオンラインに反対できない診療所への措置の情報漏えいの問題についてどう対処するか——などの見解が示される予定だ。河村氏は、この見解を受けてき

て、「保険の給付範囲を広げるか狭めるか、診療報酬を上げるか下げるかは、民主党を軸に医療費の拡充をめざす政党と抑制する政党のせめぎあいである」と指摘し、診療報酬の改善・患者の窓口負担を求める患者署名や会員署名などを力にし

て、新政権や各政党、国會議員らに、医療・社会保険充実に向けての働きかけを強めていく方針を強調した。

河村氏は最後に「裁判では、閉院に追いやられるなど地域医療が崩壊してしまう状況を、具体的に立証していくことが重要」として、現場からの声を寄せてほしいと協力を求めた。

海外技工の安全性担保されていない

石橋 哲夫・大阪歯科理工士連絡会代表



海外技工に関する報告をした大阪歯科理工士連絡会代表の石橋氏は、技工士数の減少や相次ぐ技工士学校の募集停止、長時間労働、低賃金など、技工現場の実態を示し、その原因は国による異常なまでの歯科医療費抑制策にあると強調した。

さらに国内技工の崩壊に拍車をかけている海外技工の問題を指摘。石橋氏は「海外作製の補綴物は医薬品でなく『雑貨扱い』で輸入されており、国の規制対象外。安全性が担保されない」と訴えた。国外で作製された補綴物等の取り扱いを歯科医師の裁量に押し付ける厚労省課長通知の撤回を求めた。

9月度生涯研修抄

開業医にできる小外科手術

—外来小手術を安全に施行するためには—

中嶋 正博氏 (大阪歯科大学口腔外科学第二講座准教授)

一般歯科治療のなかで行う治療内容は、保存的治療や補綴的な治療が大部分を占めていると思われ、抜歯や膿瘍切開など外科的処置を避けて通ることは不可能である。外科的処置が苦手な先生は、経験がない、外科が苦手、術中・術後のトラブルが困るなどと思われているのではないだろうか。

外科的処置の基本は、

切開、剥離、止血、縫合などがあげられる。外科的処置を安全に施行する為には、これらの基本を忠実に行うとともに、基本的な手技を習得しておく必要がある。また、抜歯術は歯科治療の口腔外科的処置の中で最も多く行われる手術であり、開業医の先生方も日常の臨床の中で避けて通ることができない手術の一つと

口腔外科手術は「抜歯に始まり、抜歯に終わる」といわれるように、前述の外科基本操作以外に、術者の姿勢、鉗子、挺子の使用法に加え、抜歯する歯の状況、周囲骨の状況あるいは全身状態を含めた診断なども重要なポイントである。どのような治療・処置においても成功の近道は、特別な技術や器具ではなく、基本的な手技が正確に出

2009 World Conference against A&H Bomb
原水爆禁止2009年世界大会・長崎

核兵器のない平和で公正な世界を
A Nuclear Weapon-Free, Peaceful and Just World

約7000人の市民や各国代表が集まった原水爆禁止世界大会=8月7日、長崎市

原水爆禁止2009年世界大会
すべての国で核廃絶を
1200万筆めざし国際署名

原水爆禁止2009年世界大会が8月7日〜9日、長崎で開かれ、各国の代表や市民ら約7000人が参加した。協会から、山上紘志副理事長(保団連副会長)と事務局が参加した。

大会では、来年5月に核不拡散条約(NPT)再検討会議が予定されていることや、オバマ米大統領が演説で「核兵器のない世界をめざす」決意を明言したことを受け、

決議が採択された。決議は「NPT再検討会議で、核保有国をはじめ、すべての政府が核兵器全面禁止・廃絶条約の締結への一歩を踏み出すよう強く求めよう」とし、核廃絶国際署名を1200万筆集約するなどの目標を提起した。大会に合わせ、保団連主催で参加者の交流会が開かれた。山上副理事長が大会の感想として、「草の根の一つひとつの実践こそが非核の実現へつながっていく。アメリカの軍産共同体の構造に飲み込まれず世界が非核に向けて加速していくと

ゴルフ保険にはご加入ですか?

「こんなとき保障されます」

- プレー中に他人に損害を与えたとき
- ゴルフ場や練習場でゴルフ用品を盗まれたとき
- クラブを損傷されたとき
- ラウンド中にホールインワンまたはアルバトロスを達成されたとき

団体割引で年間保険料6千円からご加入頂けます

問い合わせ: 大阪府保険医協同組合 保険共済部 電話06-6568-2230/fax06-6568-7093

大阪歯科保険医新聞
機関紙コンクールで大賞
「熱気が伝わってくる」と評価

協会機関紙の「大阪歯科保険医新聞」は、日本機関紙協会大阪府本部主催の第45回全関西機関紙コンクールにおいて、第2種の大賞を受賞した(写真)。コンクールは、2009年2月1日から5月29日までに発行された応募作品全68点の中から選ばれた。

受賞したのは、1000号記念特別号、フルカラー12面立て。選考した機関紙協会大阪府本部は「(記念号に対する)熱気が伝わってくる。得意のいろはカルタで38年を振り返り、20年続く連載『おおさかウォッチング』で10年前に訪れた場所を再訪。街の変貌ぶりや記者の視点の変化が、おもしろい。活動の中心にちゃんと機関紙があると評価した。」

表彰状
機関紙大賞
第2種

『大阪歯科保険医新聞』
大阪府歯科保険医協会 様

あなたは全関西機関紙、広報、ミニコミコンクールで頭書の成績を修められました。ここにその栄誉をたたえ表彰します

草の根ジャーナリズムの役割を大いに発揮し機関紙活動の前進で平和と暮らし憲法を守る世論と運動をいっそう発展させましょ

2009年6月17日

主催/社団法人大阪機関紙協会
責任者/日本機関紙協会大阪府本部
日本機関紙協会全関西地区協議会
第45回機関紙コンクール実行委員会
審査委員長 西岡 健二